

会 議 録

1 会議名

第4回柿崎区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1)協議事項（公開）

①地域活動支援事業について

・追加募集の結果

(2)その他（公開）

・地域活動支援事業の目的・効果に照らし合わせた検証・検討等の実施について

3 開催日時

平成30年6月26日（火）午後6時から7時まで

4 開催場所

柿崎コミュニティプラザ 305～307会議室

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く） 氏名（敬称略）

・ 委 員：小出優子（会長）、金子正一（副会長）、薄波清美、太田健一、加藤満、佐藤健、白井一夫、武田正教、新部直彦、楡井隆子、引間孝史、渡邊征雄

・ 事 務 局：柿崎区総合事務所 滝澤良文所長、佐藤誠司次長、風巻雅人総務・地域振興グループ長、唐澤幸代地域振興班長、長井英紀主任、高野美希主事(以下グループ長はG長と表記)

8 発言の内容（要旨）

【佐藤次長】

- ・ 会議（地域協議会）の開会を宣言
- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 1 項の規定により、会議の運営は会長が行う旨を説明

【小出会長】

- ・ 会長挨拶
- ・ 会議録署名委員に新部委員を指名

【小出会長】

協議事項 1 に入る。

地域活動支援事業について、追加募集の結果だが、6 月 1 日から 18 日までの追加募集を行ったが、応募がなかった。当初募集で不採択となった諏訪友志会の神輿の伝統継承事業は、今回は断念されたようである。

また、事務局に新規の相談が 3 件あったそうだが、提案書の提出はなかったとのことである。

予算が 857,000 円残っているので、取り扱いを決定する。

3 次募集を行うということによろしいか。

【佐藤委員】

3 次募集をかけるのはいいと思うが、市民に、地域活動支援事業とは何かがまだ理解されていないから、こういうことになっていると思う。前にも言ったと思うが、地域協議会の出前講座等において、もう少し地域協議会としての説明を市民の皆さんに丁寧にするべきだと思う。3 次募集もよいとは思いますが、そのあたりをもう一度検討した方がよいのではないか。

【小出会長】

佐藤委員から、もう少し丁寧な説明を、周知徹底ということに力を注いだらどうかという意見が出た。私も、このお金をどういうふうに使っていくのかということ、地域活動支援事業が導入されるときに、板倉区で、まちづくり振興会と

総合事務所とまちづくり学校か何かの方たちが来て、事例発表なども交えて、このお金をどういうふうに使おうと生きるのか、という基本的なことを、レクチャーを受けてインプットされた思いがあるので、佐藤委員のおっしゃるとおりだと思います。やはり、物を買ってなんぼということではなくて、それを使って活動して、地域を活性化させるためのお金なんだということ、もうちょっと深掘りして、皆さんに提示できたらよいと常日頃思っている。

他に意見はあるか。

【佐藤委員】

2次募集はゼロだったが、おそらく3次募集をしてもゼロだと思う。そうなったらこの余ったお金をどう処分するかという問題も、ある程度詰めておいたほうがよいのではないか。ただ3次募集をどうするという問題ではないと思う。

【薄波委員】

事務局に3件問い合わせがあったということだが、その3件というのは、例えば3次募集で提案してくる可能性があるものかどうかはわかるか。

【長井主任】

3件相談があり、私が相談を受けた感触では、そのうちの2件は提出してくる可能性はあると感じた。

【太田委員】

3次募集でやむを得ないということであるが、今回の地域活動支援事業の目的・効果等の検証の中で、私は、行政指導もあって、事務的なこと、あるいは書類上のことで申請できない地域や団体があるのだろうと思う。

そうした皆さんに少しでも指導を、そしてまた、まだ一回もこうした地域活動支援事業の助成を受けない地域があるわけなので、公費であるから、公平性を保つために、そうした希望があれば、少しの行政指導も必要じゃないかと、今回私はアンケートの中にそうしたことを述べさせていただいている。

【小出会長】

まだ助成を受けていない地域に働きかけていくということかと思う。
ほかにいかがか。

【渡邊委員】

今、太田委員も話をされた内容のものは、私も検証の意見に書いたが、今までと同じ募集方法ではたぶん3次募集はないだろう。違う方法は何があるのか考えると、ここのコミュニティプラザもあるし、公民館も、分館もあるわけだが、そこを利用しているグループ・団体の人たちもいっぱいいる。今までと違うやり方で募集するとすれば、そういう人たちにも何かアクションをかけて、例えば直接その人、グループ・団体の代表者に文書を送ってはどうか、今までそういうことはやっていない。

事務局は大変だと思うが、そういうことでアクションをかければ何か反応があるだろうし、やはり資料・提案書を提出することが、パソコンの堪能な方でないと中々うまくできないのもあるだろうし、そこはもう少し丁寧というか具体的に提案書を書けるように、提案者を集めて、提案書の書き方を指導することも今までなかったので、個別指導だけではなく、そういうこともやってみてはいかがか。せつかく720万の地域活動支援事業の交付金があったわけだから、なんとか眠っているものを起こすということ、ぜひやっていただきたいと思っている。

【小出会長】

活用していない地域のほかに、活動しているグループ・団体にも声かけしたらどうかということである。

また、今回3件の問い合わせがあったということだが、締め切り間際の方が多く、提案まで至らなかったということも聞いた。やはり、周知してからの募集期間・相談期間が短かったという反省もある。

ほかにいかがか。

【武田委員】

私にも2回ほど相談があった。団体として組織として申し込まないと不利だと

いう話をした中で、組織をしっかりと、役員会を通してでない申請ができな
いとなると、18日までというのは募集期間が短すぎた。もし3回目をやるのな
ら、その辺も考えて長めにしないと、太田委員の言われた意見に私も賛成だが、
そこまでやると、本当に1か月2か月近くをおかないと決定できない。

その辺をもしやるのならば、来年度は早めに動きをして、勉強会等で説明する
という形もよいと思うが、今回の3次募集のことを考えると、やはりきついのか
なと思う。

この20日間ほどの募集期間というのはちょっと短すぎて、まとめきれない。
3次募集をやるならば、いつ締め切って、どういう形でということを検討して進
めていった方がよいと思うが。

【佐藤委員】

期間が少ないからどうのではなく、市民の皆さんが、どれだけ地域活動支援事
業というものをかいしゃく理解してくれているかという問題である。それを皆さ
んに、親切丁寧に説明するべきだと思う。

去年も私からそういう話を出したと思うが、巡回型の地域協議会をやりながら、
地域住民に対しての説明を、もう少し詳しくやるべきものだと思う。

【小出会長】

一昨年度、第1回の地域フォーラムをやって、色々な団体に声かけをして来て
いただいて、色々ユニークな新しい提案が出て、若い方たちも出てきた。そうい
う意味で、地域フォーラム的なものをもう少し充実して、ワークショップでもよ
いし、地域の抱えている団体やグループの課題を洗い出すとか、そういうことも
含めて、地域活動支援事業に結び付けていけるような取り組みも必要と思う。

【新部委員】

まず、857,000円という残額が出て、このまま残したときに、来年度に
どういうふうに響くのか、行政に確認させていただきたい。

【風巻G長】

この金額については、平均割りと人口割りで配分しているため、今年857,000円残ったから来年はその分を引くという話にはならない。

【新部委員】

もし減額にならないとしたら、3次募集をかけなくても、今回はそのまま市に返還するというやり方がよいと思う。

3次募集かけて、また20万残ったなら、4次募集かけましょうということになるのか。ゼロに近づきたいのかもわからないが、無理して、第一四半期が終わるこの時期にきて、3次募集をかけなくても、素直に残額は市に返還してよいと思う。

【小出会長】

榆井委員、いかがか。

【榆井委員】

私も、できれば1次募集の時にたくさん出て、その中で選べるような、それだけ皆さんに関心を持っていただけるような事業になったら一番よいのではないかと思う。

今回、2次募集をかけても応募がなかったというのは、さまざまな理由があると思うが、結果としてそのような形になったので、新部委員のお話のように、それで減額されるということでないのであれば、3次募集は無理にかけなくてもよい気がする。

今回せっかくの検証のアンケートが来ているので、色々考えたり、意見を自分なりにまとめたりしたが、やはり、皆で色々もう一回検証をして、地域活動支援事業を根本的に考える時期にきているのかなとは思う。

【小出会長】

引間委員、いかがか。

【引間委員】

1次募集が終わって、2次募集をやったわけだが、結局応募者はなかったということで、これから3次募集をやるにしても、こういったタイムスケジュールで間に合うのかどうか。その辺の時間的な問題が私もわからないが、先ほどの話で、予算が857,000円残ったということで、これについても、減額されないということであれば、この状態でもって打ち切った方がよいのではないかと私は思う。

【新部委員】

市民の皆さんに丁寧に説明というけれども、説明する機会が、フォーラムといってもあそこに参加される皆さんは地域活動支援事業を使った団体とか、限られた人たちしか来ていない。あそこでいくら説明しても、来てる人が限られている。それが果たして全市民に伝わるかといったら伝わっていない。たいへん難しい。

それを、この地域協議会が出かけて行って、各地区で懇談会のようなものを開いてやった。やはり出席者があれだけの数の中で、地域活動支援事業というのはこういうものだと、皆さん方に説明しても果たしてどこまで届くかということ、非常に難しい。やはりこれは市全体の中の問題であって、一栴崎区の地域協議会が、地域の市民に説明するとしても限度があると思う。そういった意味で、私は3次募集はやらないほうがよいということである。

【小出会長】

加藤委員、いかがか。

【加藤委員】

私も3次募集をやる必要はないと思っている。また、第1次・第2次で採択された事業の補助は、申請額が全部満額でとおっていたか。もし減額になっているところがあれば、復活して満額支給をしてやればよいのではないかとと思っている。

【新部委員】

加藤委員の考えを行政に確認するが、残った857,000円を、例えば継続事業のところは80%とかいうふうに交付額を限定するというように定めてい

るが、上乘せをして、80%を90%に戻すということをやっているのか、その辺を行政はどう思うか。

【風巻G長】

採択方針を決めた中で採択をしているので、ここでお金が余ったから10割までもどしますというのはいかがなものかと思う。それから、補助金なので、今までの申請で採択になった団体については、全て交付決定をしている。

実績で変更になる場合はあるかもしれないが、補助金の額は交付決定をして、全団体に通知をしている。

【新部委員】

それは確定ではないのではないか。確定と決定とは少し違うと思う。

例えば私が言いたいのは、857,000円が残ったから3次募集かけましようと言っている。でも私らは、うちの協議会の中で、初年度は100%、2年目から何%と下げてある。それを最初に決められたことは事実である。皆さん大勢の参加者に、なるべく厚く採択するためにこういう決め事になったが、今回これだけの残額が出たら、これをせっかく手をあげて、100%欲しい人に80%しか出ていないから、加藤委員の言うように、上乘せをしたらどうかと。それができないかということで、それでも行政の言うとおりに、ここで最初に決めてあったんだからと言うが、ここでもう一回決めなおしてはどうか。

【風巻G長】

それは補助を受ける側としても、お金が残ったらいくらでもお金をやる、というふうにとられてしまうように思う。当初、採択方針として、審査に当たり定める事項として、地域協議会として決定されたものなので、それに従って審査をして決定していくということがよろしいと思う。

【新部委員】

それを、この地域協議会で今日、決めなおしてはどうか。

【佐藤次長】

地域協議会の皆さんで決めていただいた採択方針の第4条に、追加募集の有無という項目があり、採択の結果、地域活動支援事業の配分額に残余が生じたときは、地域協議会で追加募集の有無を決定する。とはなっているが、それ以降のものは書いていないので、当初の方針と異なる内容で皆さんが議論をされるのであれば、ここの部分の整理が必要かと思う。

【白井委員】

1回目が満額で、2回目が90%、3回目が80%という風になっているはずだが、なぜか一つだけ、7回目、8回目も最高限度額の100万で採択されているのがある。これはおかしくないか。何のために配分額の設定がなされているのか。それを皆さんで採択をしている。申請する方も、10分の8でも100万になるように計算して出してきた。そういうのを認めておいて、残額が出たから2次募集3次募集もするべきではあるが、そのところももう一度見直す必要があるのではないか。

【太田委員】

それぞれ色々な意見があるようだが、会長副会長の意見を聞き、判断をしながら会議を進めていただきたい。

【金子副会長】

基本的な中で、この地域活動支援事業の概要というのをもらっているが、その中の趣旨に目的と、もう一つ運用方針という項目がある。そこには、地域の課題解決や活力向上のために必要な事業について、極力制限を加えることなく活用できるよう、全市的な規制を最小限に抑え、できる限り地域の裁量にゆだねるとあり、ここが非常にポイントだと思う。各自治区にそれをゆだねるということであるので、それで今、追加募集をどうするかというのが議題になっているが、色々な意見があるなかで、根本的な考え方というのは次年度に向けて検討すればよいと思う。ただ、もう2次募集してもなかったのだから、今回これで打ち切って、次年度にまた色々検討していけばよいのではないかという意見も然りだ、2件ほ

ど相談があつて、これも採択されるかは提案書を見ないとわからないが、これがたぶん最後のタイムリミットで、申請をいつやってとか、期限がどうなるのかという意見があつたが、この3次募集以上はもう無理だと思うが、個人的には3次募集をしてもよいのではないかと思う。

【小出会長】

私も個人の意見として言わせていただくが、やはり地域で活動している方々は、本当にお金がない。そして、2次募集をかけたからもうない、ということはないと思う。去年は、2次募集でものすごくたくさん出てきてしまったといういきさつもある。

今回はタイミング的に、会の皆さんが考えているうちに日が過ぎてしまった、というような感じがする。そして、諏訪友志会の方たちが出すような雰囲気もあり、それだけではないが、やはり区に720万配分されているのを、ないかもしれないからもうやめよう、というのは少し乱暴かなというように思う。

そして、例えば募集と決定に時間をかけても、後期という考え方がある、10月から半年間あるので、そういうふうな募集の仕方をしている地区もあると聞いている。3次募集をかけても出てこないという悲観的なことではなく、柿崎区に配分されたものは十分きちんと活用して、地域を活性化したいと考えている。

【新部委員】

先ほど佐藤委員が言われたように、それを活用したい市民にどういうふうに、地域活動支援事業とはこういうものだ、と提案するのか。

【小出会長】

今年度は今年度の流れとして、急に短期間でどういうふうにするということではできないので、次年度の課題として、地域活動支援事業を毎年見直しをかけているが、その中でもんでいったらどうかと私は思っている。

【新部委員】

3次募集をやるというのだから、やるにはやはり先ほど佐藤委員が市民の皆さ

んに懇切丁寧に説明をしなければならぬと言われた。その説明の仕方をどういうふうにするのかということを知っている。来年度ではなく、この3次募集に向けてのことだ。

【小出会長】

私がすべて受け答えする立場にはないので、ここは協議会であるから、皆さんでどうしたらよいのか協議したいと考えている。新部委員はどのように考えているか。

【新部委員】

私は3次募集をやらなくてよいと考えている。なぜかと言えば、今言ったように、市民の皆さんに懇切丁寧に説明するには、この地域協議会では無理である。市全体の問題ではないか。

【小出会長】

自分の意見はあるにしても、どのようにして皆さんに周知徹底していくかということを知ったときに、新部委員はどのようにお考えになっているかを知りたい。

【新部委員】

今は3次募集のことをやっているのだから、地域活動支援事業のスタートからであれば色々あるが、今は3次募集のことに集中して議論をしなければいけないと思う。

【金子副会長】

3次募集を実際にかけても出てこないかもしれない、尻込みするかも知れないが、もしここで3次募集をかけるとしたら、スケジュールや周知方法はどうかということ、根本的から、この時期で時間的な制約の中でできないから、やはり先ほど太田委員が言われたように、各団体へ呼びかけるのも一つであるし、防災行政無線でどれだけ認知されるかも未知数ではあるが、そういう方法しかないのかなと思う。

期限的にはどういうスケジュールになるか、それをもし事務局的に、3次募集をかけるならこういう感じであると言うことはできるか。

【渡邊委員】

1次募集でもそういう取り組みはできなかった。やってこなかった。もちろんここでも話をしていなかったし。

今3次募集で、1次募集でやってこなかったことをこれから、例えば巡回で協議会をやるかとか、全区民に、誰一人知らないことがないように周知することは不可能でしょう。誰もできない。それは来年の募集に、今出たような意見を反映させてもらいたいと思う。

3次募集は、そういう方法は難しいとすれば、2次募集にあった3団体に、先ほど私も意見としては言ったが、思い当るところへよびかけて、そういう形で3次募集をしたらどうかと私は思う。不可能なことをここで話をしてもだめであると思う。意見する人ができるというならやってほしいが、そうでなければ、3次募集のやり方として、そういった方法をやってみたらどうか。

【榆井委員】

来年に向けて、色々そういう努力はすべきだと思う。今回に関しては、2次募集の期限は期限だと思う。やはりこれは、税金であり、大切なお金なので、お金を申請する側も、期限の条件の中で努力をするべきだと思う。もう期限が過ぎた以上、3次募集にもう1回どうですかというのは、今回に関して言えば、少し違うような気がする。ただ、来年に関しては、本当に色々PRの部分は皆で考えて、努力をしたらよいのではないかと思う。

【新部委員】

今、渡邊委員の、相談があった3団体に声がけというが、私は声がけをするのは反対である。声をかけられた方は期待をする。ですから、そういうやり方はやめていただきたい。

【白井委員】

最後、採択されなかった団体があった。その団体については、各町内会の皆さんに相談をしていなかった。そして、不採択になった後で、少しお願いをするとか、意見を聞く機会を作ったそうだが、町内会長の中で、一人だけもう一度やってみたらという意見があったそうだが、そのほかの町内会長、また役員さんは、無理だと。それで今年はもうやめましたという話を少し聞いている。

であるから、先ほど、もう1回出てくるかもしれないという話はあったが、おそらく、私としては無理だろうと思う。3次募集をしても、極端に募集の期間を長くしない限りは、出してくることは無理だろうと思う。

【佐藤委員】

こればかりやっても時間が過ぎるばかりであるから、3次募集をやるかやらないかを決めていただきたい。そして、どのような方法でやるかというのも重要な問題であるから、討論をしていても結論は出ないので、3次募集をやるかやらないかの結論をだしていただきたい。

【小出会長】

3次募集をするかしないかを挙手で採決を取りたいと思うが、よろしいか。

・「はい」の声

【小出会長】

3次募集をした方がよいと思われる委員は挙手をお願いします。

・5人の委員が挙手

【小出会長】

3次募集をしない方がよいと思われる委員は挙手をお願いします。

・6人の委員が挙手

【小出会長】

今回4人の委員が欠席しているが、この会は成立しているので、3次募集はしないということで決定する。

その他に移る。地域活動支援事業の目的・効果に照らし合わせた検証・検討等の実施について、事務局から説明をお願いします。

【唐澤班長】

先日20日付で、地域協議会の案内通知と一緒に送らせていただいた、地域活動支援事業の目的・効果に照らし合わせた検証・検討等についてであるが、本日、委員の皆さんからそれぞれのご意見がある部分について、提出をしていただくようお願いをしてある。

地域活動支援事業というのは、平成22年度から実施して9年目になるわけだが、市としても、検証が必要だということで取り組むことになったものであるが、地域協議会委員が区ごとに、採択方針であるとか、審査等を行ってきており、実際やっている委員の皆さんからも、検証・検討・ご意見をいただくということと、それを区ごとに、地域協議会と区のまとまった意見として、区ごとに提出をするという形になっているので、今回、委員の皆さんから個々のご意見をお聞きさせていただき、それを私共でまとめさせていただき、また市の意見も同時にまとめさせていただいたものを、次回の地域協議会で、委員の皆さんから意見交換をしていただいて、柿崎区の地域協議会としての意見としてまとめていきたいと考えている。

各区から、自治・地域振興課へ提出されたものを、自治・地域振興課で一つにまとめ、地域協議会の会長会議に示して、意見交換等をした中で、検証結果をまとめていくことになっている。その結果をまとめたものについては、次年度に反映していけるような形にしたいと考えている。

今日ご提出いただいていない委員については、全項目についての意見を求めているわけではなく、空欄もあって結構であるので、提出していただきたいと思う。また、もう少し考えたいという委員もいらっしゃるかと思うので、これについては、金曜日までに事務局へお出しいただくようお願いする。

【佐藤委員】

期限は今日までではないのか。

【唐澤班長】

今、数名の委員から、もう一つ二つ項目を検討して出させていただけたいというお話をいただいたので、その辺は待たせていただこうと思う。それで、こちらの方でとりまとめたものを、7月の地域協議会の開催案内と同時に、送付させていただくので、それを事前に見ていただいて、7月の地域協議会でまた意見交換をしてまとめたいと思っている。

【金子副会長】

事務局に質問だが、私もこれから出すが、私ばかり戸惑っているのかもしれないが、例えば備品購入の取り扱いというテーマであるが、その下に、過去に地域協議会委員や職員から出された意見として二つ三つあるが、私もこの意見とまったく同じ意見と思っている場合には、どういう意思表示をしたらいいのか。ここに載っているならば、触れないでくれという意味なのか、その辺を聞きたい。

【唐澤班長】

触れないでということではない。これは過去の意見であり、これと同じ意見を持たれたら、また書いていただきたい。

【佐藤委員】

この目的というのは何なのか。最終的には地域活動支援事業をなくしたいためのものなのか。

【滝澤所長】

お答えをさせていただく。

先ほど事務局から説明させていただいたように、この事業は9年間経過している。皆さん方が議論の中で思い出していただけるように、初めてやった事業であったため、補助対象であるとか募集の方法であるとか、たくさん議論をしていた

だいた。ただ、市の税金を使う補助事業であるから、この9年目に検証をしたい。検証とは何かと言えば、課題点、またその目的に沿った成果、さらなる工夫、というものをやろうということであるから、少なくとも私どもは今は、よりよい事業になるための検証と考えている。そこはなくすためというものは、前置きでは考えていないので、ご理解いただき、今日の議論にあったように、本当にこの事業を使って、地域課題をどうやって改善していこうということで積極的なご意見をいただきたいと思っている。

【渡邊委員】

これは6月20日の発出文書であるが、今日は一週間経っていない。この間にやるということは、これは真剣に向き合ってやれば一日かかる。そのくらいの時間を要するというか、逆に言えば重要な、大事なことであるという認識だ。やはり思い付きのままにさっさと書いて出す中身ではない、今所長が言われたように、やはり10年の節目だから、一つの検証を加える。新たな内容で、また取り組めるものがないかということであろうから、これをもらった時に、この次の26日で間に合うだろうかという不安もあったし、考えると色々ひっくり返さないとまたその自分の考え方が出てこないようなものがあるので、最初から少し時間に猶予をいただければ、まだ色々考える余地もあったかなと思う。まあ今日出したが、非常にハードな中身だったと思う。ぜひこの次から、配慮をお願いしたい。

【小出会長】

その他に移る。

- ・第5回柿崎区地域協議会の開催について

日 時：平成30年7月17日（火）午後6時～

会 場：柿崎コミュニティプラザ 305～307 会議室

- ・地域活動フォーラムの開催について

日 時：平成30年12月16日（日）午後2時～

会 場：リージョンプラザ上越

配付物のお知らせについて、事務局から説明をお願いします。

【唐澤班長】

- ・配付物のお知らせ

【小出会長】

ほかにいかがか。

【佐藤委員】

行政に尋ねるが、コミュニティ助成事業で、地域防災組織育成助成事業が31年度で終了というような話を聞いたが、それでよいか。

【風巻G長】

廃止という話は聞いていない。

【佐藤委員】

市の自主防災組織の補助金のほうが、31年度で廃止ということによいか。

【風巻G長】

自主防災組織の関係は31年度で廃止の予定である。

コミュニティ助成事業の方は、内容は同じだが、お金の出どころが違うので、これは継続というふうに聞いている。

【小出会長】

- ・閉会を宣言

(午後7時閉会)

9 問合せ先

柿崎区総合事務所総務・地域振興グループ

TEL : 025-536-6701 (直通)

E-mail : kakizaki-ku@city.joetsu.lg.jp